

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第72回 部下の朝の顔を観察

部下が1日のスタートをしっかりと切れるよう、上司は朝一番に部下の顔色や雰囲気をチェックし、彼らの調子を把握しましょう。

朝のスタート 1日の質を左右

「スタートダッシュできない人は、ラストスパートができない」とわたしは思っています。基本的にレスといふのは、先頭集団にいるからこそ、最後に優勝する可能性が出てくるのです。最初はタラタラ走って、「ラストスパートをするればいいや」と思っている人が勝てるはずがありません。そして、仕事でいえば、1日の

スタートはいうまでもなく朝です。

朝、どうスタートさせられるか、どのくらいスタートダッシュができるかは、1日の質を大きく左右します。そこで、上司は朝礼のとき(朝礼を行っていない会社なら、朝一番に)、部下の顔色や雰囲気をチェックしてみてください。シャキッとした顔をしている部下もいれば、まだ半分寝ているような部下もいるでしょう。ダルそうな雰囲気の部下、

いかにも体調が悪そうだなという部下もいるかもしれません。

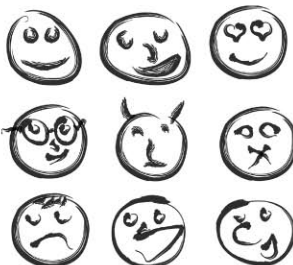
数日観察しているだけでは、なかなか分かりませんが、毎朝部下の顔を観察していれば、その人の気分や体調が分かるようになってきます。体調が悪そうなのに「大丈夫か」とか、眠そうな部下に「シャキツ」としてよ」と声を掛けてあげただけでも、朝の雰囲気がだいぶ活性化されるのではないのでしょうか。

部下の調子を把握 指示や助言に役立てる

さらに、朝一番を考えることは、「今日1日何をす

るか」ということです。スタートダッシュを決めるためには、今日1日何をするか整理された状態で、頭に入っていないければなりません。周囲の人が仕事を始めてから、「えっと、今日何をするんだっけなあ…」と考えているようでは、取り残されてしまいます。

上司としては、部下の顔色、雰囲気を観察しながら、いざ仕事に取りかかるとき、どのようにスタートしているのかもチェックするといひでしょう。眠そうな顔をしているながら、実は1日のスケジュールが頭に入っていて、すぐに仕事に取りかかるといふタイプもあれば、すっきりした顔をしていな



がら、なかなか仕事に取りかからないタイプの人もいます。部下のタイプを観察して、把握することができれば、その後の指示、アドバイスにも役立てることもできるでしょう。

『上司のルール』より転載